



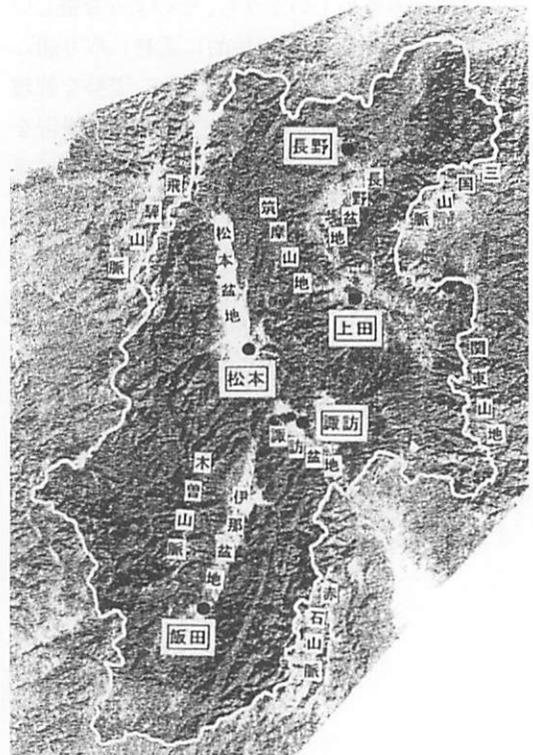
長野県でのネットワーク活動について

前澤 好広

長野県でのネットワーク活動について述べる時、その地勢についてお話しすることを避けて通ることはできません。長野県は全国で四番目に面積の広い県で、県最南の飯田市から県庁所在地の長野市まではそこから東京へ行くよりも時間がかかる南北に長い県です。県歌「信濃の国」に歌われているように、周囲を飛騨山脈、南アルプス、北国山地に囲まれています(図)。また県内は赤石山脈、八ヶ岳、筑摩山地により遮られ大まかに四つの盆地に分けられています。さらに幹線道路、鉄道などの交通網は山間を縫うように走っていて、各盆地間は常に急峻な峠を越えていかなければなりません。このような地形は昔から長野県の生活、文化に大きな影響を及ぼしていて、地域の交流の妨げになっています。

長野県の保健医療圏は山の尾根に分けられた主な市の10の医療圏からなっています。救急医療におきましては、北信の長野赤十字病院、東信の厚生連佐久総合病院、中信の信州大学、相沢病院、南信の伊南行政組合・昭和伊南総合病院という四つの地域に分けられています。

以前より図書室の諸先輩方が、県内のネットワークを渴望していましたが、前段でも述べましたようなその地形ゆえか図書室の交流が広がっていませんでした。近年始まった病院機能評価を受審するにあたり、図書館の整備、図書館業務の確立、サービスの拡大・向上を目指し、また文献入手を含めたネットワークの必要性が高まりを見せる中で、佐久総合病院の佐々木さ



土地利用の状況 (長野県)

区分	総面積	森林・原野	農用地	宅地	その他
面積 (km ²)	13,585	7,638	1,493	455	4,000
割合 (%)	100.0	56.2	11.0	3.3	29.4

資料:「ながの県勢要覧 平成10年版」(平成11年 長野県)

図.

ん、飯田市立病院の渡辺さん、そして私長野日赤の前澤の3名が中心となり「峠を越えて」交流を始めました。先に述べました地形による交流の難しさを打ち破ったのはひとえに「長野県に図書館ネットワークをつくろう」というメンバーの情熱であったと思っています。2005年7月に長野県で開かれた近畿図書室協議会のサ

マーセミナーを契機に準備運動が始まりました。このサマーセミナー参加者のうち、長野県にある病院図書館67施設へのアンケートを実施し、11施設より回答をいただきました。内訳は公立・公的病院、大学でした。特に病院について見ると、図書館の整備はされていましたが、人員は兼務が多く、業務内容についても、図書、雑誌の管理・発注、文献複写依頼などの業務は行われているが、他のサービスはこれから、というところもありました。

図書館は病院事業において、利益が目に見えづらい部門であり、またそれぞれの病院の規模、病院スタッフの数とも影響があるのかと思いました。

このような条件下で、身近な、顔の見える所で業務の問題点などを相談しあえる仲間やスキルアップの場所を求め、およそ半年の準備期間の後、2005年12月に長野県医学図書ネットワークが発足しました。

会員の所属施設は、信州大学医学図書館、県立看護大学、飯田市立病院、昭和伊南総合病院、伊那中央病院、諏訪中央病院、諏訪赤十字病院、飯山赤十字病院、県立須坂病院、長野中央病院、長野赤十字病院、佐久総合病院、県立こども病院、安曇赤十字病院で、本ネットワークはこれら15施設でスタートしました。このうち医療機関はいずれも病床数が200床以上ある地域の中核病院です。現在も入会に関する問合せがあり、この原稿が印刷される頃は新たな参加者が加わっていると思います。

ネットワーク発足においてまず実感した利点



は情報の共有でした。雑誌、図書購入時に価格が納入業者の言いなりであったところは、競争入札にすることで和雑誌の値引率を一段と下げることができました。当院では物価上昇の折にもかかわらず洋雑誌の納入価格を前年と同程度に維持できました。前年より大幅に価格を下げることでできた施設もありました。

また信州大学医学図書館がネットワーク加盟会員に対しては、文献複写代金支払いを後払いにいただいたことで、速やかに入手が可能になり、利用者へのサービスが一段と向上しました。加えて電子ジャーナルにつきましても大学図書館が契約している12,000タイトルを速やかに入手できるようになりました。

問題が起きたり迷ったりしたとき、すぐに相談をする仲間と場所ができました。

まだ生まれたてで、何もかも手探りの状態ですが、みんなで考え、共に歩んで行こうと思っています。今後も皆様のご指導ご鞭撻をおねがいします。